

## 2021年度 独創的研究助成費 実績報告書

2022年 3月30日

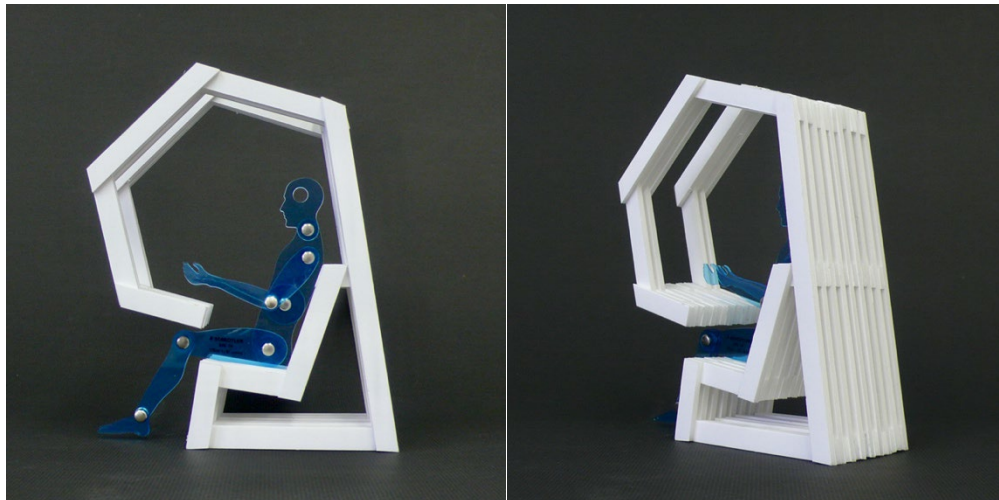
報告者	学科名	工芸工業デザイン学科	職名	教授	氏名	南川 茂樹
研究課題	間伐材を活用したリモートワーク向けワークデスクのデザイン研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	南川茂樹		工芸工業デザイン学科・教授	プロダクトデザイン	材料研究・構造研究・デザイン全般
	分担者					
研究実績の概要	<p>コロナ禍の影響を受け、リモートワークを推奨する傾向が高まってきた。大学でも、オンライン授業の受講が増え、在宅で仕事や授業を遠隔で行うことが日常化している。それを受け、様々なリモートワーク用のソフトが普及してきたが、ハード面となる作業用のデスク環境はまだまだ快適とは言えない。</p> <p>これらのことを解決するために、いままで研究してきた間伐材の有効活用と結びつけ、リモートワークの無機質な機器に溢れている中、自然素材である間伐材（ヒノキ）を使うことで、気持ち的にもリラックスしながら作業ができるワークデスクのデザインを研究した。</p> <p>1. ワークデスクの事例調査 現在普及しているワークデスクを調査研究し、コロナ禍における最適な形状と小スペースでも利用可能なサイズを導き出した。</p> <p>2. 構造研究 事例調査から導き出された形状とサイズから、間伐材で構成するための構造を検討した。間伐材の歩留まりを優先し、使用する部材の大きさを決定した。その部材を使用した最適な構造を導き出し、デザインに落とし込んだ。</p> <p>3. デザインの検討 構造研究から間伐材を積層構造にし、その構造を活かし小スペースでも可能なデザインにまとめた。在宅に適したサイズと、移動可能なデザインを検討。デスクトップPC操作や座り心地も十分に検討した。さらにリモート会議等を想定して、背景のオプションやライティング設備の設置場所に至るまで、デザイン要素に加味した。</p> <p>4. 試作モデル制作 「株式会社 西粟倉・森の学校」の協力を得て、試作モデルを作成予定であったが、ウッドショックの影響を受け、材料の高騰と材そのものの不足があり、試作制作するための材が十分に手に入らなかった。そこで、スケールモデルの試作を徹底することにし、スケールモデルでの様々な検証を行った。</p>					

※ 次ページに続く

研究実績  
の概要

5. 検証

上記の理由により実物での検証できず。下写真がスケールモデル。



成果資料目録